

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これからの時代に必要となる様々な資質や能力の育成を目指し、「SSH」「理数教育推進校」「学力向上進学重点校」「学力向上進学の役割を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントに取り組む。	①SSHとしての特色ある教育課程の検討を重ねるとともに、生徒の自己実現に向けた履修指導を行う。 ②主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践を充実させる。 ③新学習指導要領に基づく教育課程について、適切な運用方法を検討し、確実に実施する。	①SSHとしての本校独自の教育課程の検討及び生徒の進路実現のための講座編成や時間割を作成する。 ②校内及び公開研究授業等を通じ、生徒の主体的かつ論理的思考力の育成を目指した授業を実践する。 ②探究活動を中核としたサイエンスプログラムを実践し、科学的探究力、協働力、創造力を育成する。 ③生徒の履修希望科目に沿った講座を編成し、時間割を作成する。	①SSHとしてふさわしい教育課程となっているか。 ②「生徒による授業評価」において、課題解決に関する評価項目(3と6)の回答のうち、50%以上が「(項目4)かなり当てはまる」であったか。 ②生徒が主体的に探究活動に取り組み、成果を表現できたか。 ③生徒の履修希望科目に沿った講座を編成し、時間割を作成できたか。	①理数探究を3クラス同時に展開し、生徒の探究活動を支援するために教科のバランスに配慮した授業担当者を配置することができた。 ①探究活動を中心とした教育課程の編成を行うために、各教科で授業研究を行っている。(11/14に公開授業を実施予定) ②前期実施の第1回目「生徒による授業評価」において、評価項目3及び6の「(項目4)かなり当てはまる」の回答はそれぞれ39.9、37.2%と目標値を下回った。 ③全ての年次において、新しい学習指導要領の科目に対応した講座及び時間割の編成ができた。	①理数探究の授業展開及び授業担当者について、今年度の実施状況を踏まえて検討する。 ①今後は週単位数(現行33単位)や1コマ当たりの時間数(通常65分)の見直しなども視野に入れて教務グループと連携して検討していく。 ②後期に入り、1・2年次ともに本格的な探究活動が始まるので、その成果に期待するとともに、教員の指導・助言におけるスキルアップを目指す ③今年度の実施状況を踏まえて、各科目の講座編成や自由選択科目のOdatechの時間割編成について検討する。	①クリエイティブな創造力と発想を育て、探究を深める取り組みをぜひ続けてほしい。探究活動ではプチ大学のような雰囲気を感じる。探究テーマが大変興味深い。中学校にニュースが欲しい。 ①国を挙げての活動を担っているのだから地域としても応援したい。人的資源を生かしてほしい。 ②公開授業の取り組みが良い。 ③理系科目のカリキュラム構成が受験の実態と合致していない。改善策を今後の課題にしてほしい。	①「理数探究」を3クラス同時に展開し、時間割を編成することができた。授業担当者については人数・担当教科の検証が必要である。 ①「理数探究」については、生徒の実態を踏まえて、SSHとして本校独自のカリキュラムを作成し、実行することができた、細かな改善点については情報共有を行う。 ②「生徒による授業評価」において、理数教育推進校の取組状況の指標である評価項目3及び6の肯定的回答はそれぞれ91.2%、90.5%であり、目標値をわずかに下回った。 ③生徒の履修希望科目に対応した時間割を編成できた。「理数探究」の3クラス同時展開での運用を編成した。時間割編成の制約が大きい中、持続的に「理数探究」を運用できるかが課題である。	①「理数探究」に限らず、生徒の探究活動に関わる教員を増やすとともに、教員側の探究活動に対する資質向上を図る。 ①探究活動の展開方法を工夫し、文科系生徒の意欲と関心を高める。 ②県内SSH校及び理数教育推進校と連携して、本校ならではの魅力ある取組を実施し、外部に発信していく。 ③生徒の進路希望を踏まえた上で、履修希望段階での選択科目の組み合わせを検討する。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①学校行事、部活動、委員会活動を更に充実させ、その活動を通じて、人間形成を図り、全人教育を実践する。 ②生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制をさらに充実させる。	①学校行事、部活動、委員会活動を通して、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る。 ②教育相談全体支援会議と職員が協力して支援に必要な生徒の対応にあたる。 ②SC,SSWとの連携を密にし、支援体制をさらに充実させる。	①学校行事や部活動等で生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じてこれを解決する力を育成する。 ②教育相談全体支援会議で支援を必要とする生徒の情報を集約し関係職員と共有しながらより適切な支援を行う。 ②SC,SSWとの情報共有を密にして、迅速な対応を行う。	①行事や部活動等で生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じて新たな工夫を加えながらその解決を目指すことができたか。 ②職員が本校の支援体制を理解し、支援が必要な生徒の情報を共有し適切な支援を行うことができたか。 ②SC,SSWとの報告・連絡・相談を円滑に行い、計画的かつ迅速に課題解決に向けて取り組むことができたか。	①文化祭、体育祭においては、生徒が主体的に企画、運営を行うことができた。 ②SCやSSWとの連携も含め、チームとなって生徒を支援することができた。 ②中間検討会を実施し、支援が必要な生徒の情報共有ができた。今年度第1回「かながわ子どもサポートドック」において、アンケートの回答に心配な点がある生徒については、担任のプッシュ型面談を実施し、必要な対応について年次全体で対応を検討し、支援の方策を立てた。	①スポーツ大会や合唱コンクールにおいても、生徒と職員が密にコミュニケーションをとって充実した取組みとなるよう企画運営を行っていた。 ②さまざまな問題を抱えた生徒に対し、関係機関と連携をとりながら支援を行っていききたい。 ②引き続きSC,SSWとの報告・連絡・相談を円滑に行い、SC,SSWのプッシュ型面談を積極的に実施し、悩みや苦しみを抱えている生徒にとってより必要なケアが受けられるようにしていく。	①生徒会とPTAが文化祭での協力体制を強めていきたい。安全に留意した文化祭の実施について、PTAとの連携・情報共有を進めていく ①犯罪防止の学びについても学校側で進めてほしい。 ②必要な情報共有を行って生徒本人やその背景にある事情を理解し、適切な対応を行ってほしい。	①学校行事に関しては、ノウハウが引き継がれにくい中で生徒、職員が密にコミュニケーションをとり、円滑な運営がされていた。 ②支援が必要な生徒の情報を組織的に共有し、適切な支援を行うことができた。保護者のSCの利用も積極的に勧めることができた。 ②中間検討会では、支援が必要な生徒の情報共有を行い、生徒に対する支援の方向性を円滑に共有することができた。	①学校行事終了後にアンケートを実施して振り返りを行い、次年度以降の行事が有意義なものになるように生徒会生徒、職員とコミュニケーションを密に取る。 ②引き続き支援が必要な生徒の情報共有を行い、適切な支援が行われるようにする。 ②中間検討会後に支援が適切に行われているか、職員とコミュニケーションを密に取れるようにする。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月24日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	生徒の第一希望の進路を実現できるよう、目的意識の強化と学習意欲のさらなる向上を目指し、各種模擬試験等の分析を活用し、自立的なキャリア形成を支援する。	①生徒の学習取組状況や進路希望情報を共有し、進路実現に向けた組織的な支援体制を整える。 ②卒業生や社会人の講話等のキャリア行事で生徒のキャリア形成を支援するとともに、補習・講習 及び実力試験等の学習支援を通して難関大学への進学意識を高める。	①生徒の学習への取組状況や進路希望情報を教職員で共有し、面談や進路説明会等で保護者とも共有することできめ細かな進路支援を行う。 ②卒業生や社会人の講話等を通して、将来への目標意識を高める。 ③補習・講習及び実力試験等の学習支援を通して実力を伸ばし、難関大学への進学意識を高める。	①生徒の学習取組状況や進路希望情報を理解したうえで生徒及び保護者に必要な支援を行うことができたか。 ②生徒がキャリア行事の目的を理解して自身の目標設定に向けて取組むように指導できたか。 ③実力試験等の結果分析を活用することで生徒の実力をさらに伸ばし、難関大学への進学意識を高める支援が行えたか。	①生徒の学習取組状況や進路希望情報を教職員で共有するためにデータの一元化を目指し、統合を行うことができた。 ②卒業生の講話を通して将来への目標意識を高めるキャリア行事を実施することができた。 ③学習支援を通して生徒の実力を伸ばすために効果的に夏期講習を実施することができた。	①データを一元化し、統合を行うことで年次をまたいだ指導を可能にする。 ②社会人講話後に目標設定に向けて取り組む様子を検証し、効果的な実施の形態を検討する。 ③土曜講習、冬期講習及び実力試験の実施後、効果的に実力を伸ばすことができているか検証しつつ、時期設定も含めたより効果的なあり方を検討する。	①地域を代表する進学校として実績を出していくことを期待する。 ②進路実現に向けて同窓会からの応援も有効に活用してほしい。 ③卒業生の協力を生かして生徒に具体的な進路目標を持たせてほしい。	①進路指導に係るデータの一元化を行うことができた。年次をまたいだ指導を可能とするために、効果的なデータの活用を検討し地域を代表する進学校として実績を出していく。 ②卒業生や社会人講話等のキャリア行事および実力試験や講習などの学習支援を行うことができ、目標意識を高めることができた。今後は具体的な進路目標を持たせることができるようなキャリア行事の検討および企画実施を目指す。	①学力向上進学重点校として、進路指導関係のデータを一元化し、教職員が目的と具体的な指標を共有することで、指導効果を高める。 ①理数探究のクリエイティブな学びを大学入試に対応する学力の育成と捉え、学校全体で推進する。 ②今年度の進学実績を分析し、各種講演会を生徒の進路開拓の意識を高める内容とする。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	①生徒一人ひとりの幅広い学力の育成のため地域等の教育力を活用する。 ②地域に開かれ、地域と共にある学校を目指し、学校の教育活動の情報提供や学校運営協議会の促進等を行う。	①地域や行政(市防災安全課)等と連携し防災訓練・研修会等を実施する。 ①地域貢献活動等を計画し、生徒の積極的な参加を促す。 ②学校説明会・学校カミングデー・県西地区合同説明会等を開催、参加して地域から信頼される学校づくりを推進する。 ③ホームページを充実させ、日々の教育活動の情報をより積極的に発信する。	①防災避難訓練実施で生徒及び職員が連携して適切に身を守る防災活動を実施したか。 ①地域貢献活動(年3回)を実施したか。 ②学校説明会・学校カミングデーの開催及び県西地区合同説明会等に参加して目的を達成できたか。 ③地域に開かれ地域と共にある学校を目指して学校の教育活動の情報提供や学校運営協議会の促進等を行えたか。	①地域貢献活動は予定通り実施することができた。 地域貢献活動(3年) 9月24日実施 地域貢献活動(1年) 10月22日実施 地域貢献活動(2年) 11月19日実施 ②学校説明会・県西地区合同説明会等は予定通り開催できている。また、学校カミングデー及び中学校からの本校訪問事業等も準備を進めている。 ③ホームページの更新のタイミングが内容によって遅れてしまうことがあり、日々の教育活動に関する情報提供にタイムラグが生じてしまうことがある。	①防災避難訓練での職員間の連携及び適切に身を守る防災活動を実施することができた。 ①地域貢献活動は清掃地域等を改善して実施した。 ②県西地区県立高校合同説明会(7月実施)県西地区公私合同説明・個別相談会(8月実施)は予定通り開催した。学校説明会(全3回)では参加者のアンケートを活かして実施した。 ③ホームページの更新をこまめに行う。関係部署から直接配信・更新できるようなシステム(構築済)の活用を促す。	①地域貢献活動を公開してよい点をアピールしてほしい。自治体、地域からも協力したい。 ①登下校時の道路通行マナーや店舗前でのマナーはこれからも注意喚起してほしい。 ②学校と地域住民が互いに声を交わし挨拶を交わせるような風通しのいい地域にしていきたい。	①職員と生徒間で連携を組み、速やかに防災避難訓練を(年二回)予定通り実施することができた。 第1回4月23日実施 第2回12月24日実施 さらに地域と情報を共有して連携を深める。 ①今年度の地域貢献活動(清掃活動)は活動地域を見直して実施した。 第1回9月24日(3年) 第2回10月22日(2年) 第3回11月19日(1年) ②県西地区県立高校合同説明会(7月実施)県西地区公私合同説明・相談会(8月実施)は予定通り開催した。学校独自の学校説明会(全3回)では毎回参加者のアンケートを活かして実施できた。	①地域貢献の意義と効果の周知に努め、生徒参加の地域貢献活動を全学年で継続する。 ①市役所とも連携し、地域の特性を踏まえた実践的な防災訓練を行う。 ②各種学校説明会の機会を活かし、公立高校としての良さも含めて小田原高校の魅力と特色をアピールする。
5	学校管理 学校運営	①地域や外部機関との連携を進め、教職員の専門性の向上を図り、SSH事業をさらに充実させる。 ②教職員一人ひとりの意識を向上させ、業務の組織的対応と事故・不祥事防止を徹底する。	①SSH事業のさらなる推進に向けて、校内外の人的・物的資源を最大限に活用するとともに、先進校訪問や研修等を通して教職員の専門性を向上させる。 ②不祥事を「自分事」と捉えるよう教職員一人ひとりの意識改革に取り組むとともに、校内マニュアルの活用を徹底させる。	①学校運営協議会の活用及び地域や外部関連機関等との連携を通して教職員の専門性を高める。 ②研修会や声掛けを通して教職員の意識啓発を図るとともに、教職員間の日常的なコミュニケーションを活性化させる。 ③校内マニュアルを活用した組織的な業務遂行を徹底する。	①学校運営協議会等、校内外の人的・物的資源を十分に活用したか。 ①教職員の専門性の向上がSSH事業の推進に活かされたか。 ②教職員一人ひとりの不祥事防止への意識が改善されたか。 ③業務遂行において、校内マニュアルの活用が徹底されたか。	①職員に県内・県外のSSH先進校訪問を促し、優れた取組み内容の吸収を進めた。公開研究授業や研究協議会を企画し、地域や外部関連機関等に情報を発信し、教職員の専門性向上を図った。 ②毎回の職員会議で不祥事防止会議を実施し、時期に合った注意喚起を行い、職員同士の自己点検や同僚性の強化を促した。	①研修の機会を生かして校内外の人的・物的資源を活用した。学校運営協議会からの助言を有効に生かしていきたい。 ①研究発表や研修を通じてSSH事業を全校体制で推進する。 ②校内マニュアルを活用し、気になる点を見逃さずに事故・不祥事防止を徹底する。	①「がんばれ小田高」からの教員研修について、年間計画はあるのか。体制づくりを行ってほしい。 ②管理職からだけでなく、職員がグループごとに事故防止の資料を作成している点が良い。	①SSH先進校訪問や県内進学校の公開研究授業に多くの職員が参加し、有効な手立てを得た。学校運営協議会での情報交換で地域からの期待と改善すべき点に気づきを得、活動の活性化が行えた。 ②月例の不祥事防止会議に加えて入学者選抜業務の事故防止研修を行い、全職員でルールに則った業務運営ができた。	①進学実績を上げているSSH先進校の指導内容を本校の実践に活かし、学力向上進学重点校とSSHの学びの効果を最大化する。「がんばれ小田高」運営基金を新年度当初からの教員研修に計画的に適用する。 ②事故・不祥事防止を安全で風通しの良い職場環境作りの一環と捉え、職員主体の研修を継続する。

